



Tamagawa Academy - IB Division

NEWSLETTER

Issue 01

May 2026

Message from the IB Division



Recent events / 最近のイベント

Dream teacher project / 夢の教室

きらぼし銀行が8年生のために協賛している特別イベントについてお読みください。

World Book Day / 世界本の日

生徒や教職員がお気に入りの物語に命を吹き込み、廊下がまるで「生きた図書館」へと姿を変えました!

Purple Comet math competition /

パープル・コメット数学チャレンジ

数学に優れた才能を持つ生徒たちがチームを組み、複雑な課題に取り組みながら、その素晴らしいスキルを披露しました。

MUN Conference / 模擬国連会議

学校で開催された没入型のMUN会議を通じて、生徒たちは世界のリーダーになりきり、差し迫った国際問題について討論を行いました。

Students in Action / 生徒の活動

KK - Goethe School

SS - Hou Ku'i Project

RK - Youth for Cebu

Interview / インタビュー

Student Council

選挙公約の裏にある真実を知りたいですか? 私たちは生徒会メンバーと共に最近の設備のアップグレードやメンタルヘルスへの取り組み、そしてその間に及ぶあらゆる事柄について話し合いました。

MとSをクリックして、インタビューの全文をチェックしましょう!





IB Division月刊ニュースレター第1号へようこそ。

児童生徒・保護者・教職員の皆様におかれましては、新学年度のスタートを心よりお祝い申し上げます。

本年度が、私たちのコミュニティのすべての皆様にとって、成長と成果、そして意義ある学びに満ちた一年となることを願っております。

また、児童生徒たちが新年度を大変良い形でスタートしていることを大変嬉しく思っております。すでに多くの生徒が、思いやりを持つ人 (Caring) や知識を持つ人 (Knowledgeable) など、幅広い学習者像の資質を発揮している様子が、表彰のページからもご覧いただけます。

本年度は、「努力 (Hard Work)」「グローバルな課題 (Global Issues)」「主体性 (Being Active)」という価値観に重点を置いてまいります。本ニュースレターを通して、児童生徒がスポーツに積極的に参加したり、世界中の人々のニーズに応え、意義のあるチャリティ活動のために募金を行ったりするなど、これらの価値観がすでに実践されている様子をご覧いただけます。

本ニュースレターの目的は、IB Division全体で行われているさまざまな取り組みを紹介し、称えることにあります。毎月、児童生徒の学びや成果、行事や活動のハイライトをお届けするとともに、コミュニティがつながり、情報を共有できるよう努めてまいります。また、本ニュースレターの発展とともに、児童生徒が主体的に関わり、自らの声や経験、成果を発信するなど、児童生徒のリーダーシップがさらに高まることも期待しております。

年度の初めにあたり、児童生徒たちには昨年度の成果を振り返り、新たな目標を設定することの大切さについて話をする機会がありました。その際に教室内外での成果は、児童生徒自身の努力に加え、ご家族や友人の支え、そして教員の献身的な指導によって実現されたものであり、そのことを大変誇りに思っていることを伝え、3月に行なわれた式典では、それぞれの成果の振り返りを踏まえ、昨年度うまくいったこと、改善したいこと、そして新たに挑戦したいことについて考えるよう促しました。さらに、児童生徒一人ひとりに短期的・長期的な目標や夢について考えさせるとともに、成功は必ずしも容易に得られるものではないことも伝えました。

玉川学園の創立者である小原國芳先生の理念に基づき、粘り強く努力し続け、主体的な姿勢で課題に向き合い、前向きに挑戦していくことの大切さを改めて子供たちに伝える機会となりました。本年度も充実した一年となりますよう、そして多くの成果を皆様と共有できますことを心より楽しみにしております。どうぞよろしくお祝い申し上げます。

Oliver Furnival
Head of IB Division

Mr. Cook - Director of Teaching and Learning



A Helping Hand Across Campus キャンパスでの思いやりのひととき

東山校舎4階の静かな午後、Grade 9の教室のドアの窓に小さな顔が現れました。そこには、明らかに道に迷い、不安そうなGrade 6の生徒が立っていました。

数分後に戻ってきたとき、その戸惑いは涙に変わっていました。彼はドアから顔をのぞかせ、自分の教室を見つけるのを手伝ってほしいと頼みました。Grade 9の生徒たちはすぐに行動し、年下の生徒を安心させながら、行くべき場所を一緒に確認しました。

「それは、私たちの学校コミュニティの強さを改めて感じさせる、
本当に思いやりにあふれた光景でした。」

その生徒が実際には今いるところから反対側のサイテック校舎に行く必要があると分かったと、Kさんが自ら進んで付き添い、安全に到着するよう案内しました。

これはリーダーシップと思いやりを示す素晴らしい行動であり、困っている生徒にとって大きな助けとなる、ささやかでありながら大きな意味を持つ親切な行いでした。

Ms. Wei - DP Coordinator



G11の生徒たちは、ディプロマ・プログラムの良いスタートを切っています。

生徒たちは積極的にCAS活動に取り組み、地域社会とも関わりを深めています。

G12の生徒たちは、DPの最終段階を迎え、今後数か月は忙しい時期となります。

現在、IA（内部評価）に取り組んでおり、10月から始まるIB試験に向けて、6月には模擬試験が実施される予定です。

Mr. Serpico - MYP Coordinator



Grade 6の生徒たちは初めての実験室での理科実験に取り組みました。

水に溶ける塩化ナトリウムの量が、使用する溶媒の体積によってどのように変化するかを探究しました。

この活動は、安全に実験室で作業を行いながら、生徒たちが自己管理スキルを高める絶好の機会となりました。



DREAM TEACHER PROJECT



夢の教室とは何ですか？

夢の教室は、きらぼし銀行がスポンサーとなってGrade 8の生徒を対象に実施している特別なイベントです。毎年、プロのアスリートが来校し、生徒とチームビルディング活動を行った後、ご自身の人生について講演を行います。この取り組みは今年で3年目となりました。



なぜ玉川学園では夢の教室を実施しているのですか？

Primary DivisionのGrade 5でも同様の取り組みが行われており、これはキャリア教育の一環として、生徒が将来の目標や夢について考える機会となっています。またアスリートの方々でも、どのような道のりも決して完璧ではなく、誰にでも浮き沈みがあることを学ぶ機会にもなっています。

海堀あゆみさんのキャリアについて教えてください。

海堀あゆみさんは現在、日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）の理事長と、日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）の理事を務めています。2011年にドイツで開催された女子ワールドカップでは日本代表のゴールキーパーとして出場し、日本初の優勝に貢献し、決勝ではMVPにも選ばれました。また、2012年ロンドンオリンピックにも出場し、銀メダルを獲得しました（Furnival先生は実際にその試合を観戦していました！）。



海堀さんは生徒たちにどのようなアドバイスをされましたか？

海堀さんは、生徒たちに自身の経験について話してくださいました。最初はサッカーのフォワードとしてプレーしていましたが、誰にも告げずに突然やめ、新しいことに挑戦したいと考え、テニスに取り組みました。しかし、友人二人が彼女はサッカーに戻るべきだと考え、高校最後の年にサッカーへと引き戻しました。そのときにゴールキーパーになりました。この出来事がなければ、今の成果はなかったかもしれないと話されました。また、ワールドカップやオリンピックのユニフォームやメダルを持参し、生徒たちは実際に手に取ったり身につけたりする貴重な機会を得ました。

“支えてくれる友人がいることは本当に助けになりますし、そうした支えがあるからこそ挑戦し続けられます。私にとってホープ・ソロ選手は最強のゴールキーパーを目指すうえでの目印（目標や指標）でした。一方で、手本としては山郷さんや福元さんの存在があります。このように自分にとっての目標や手本を持つことはとても大切です。”



DREAM TEACHER PROJECT



STUDENT VOICE



R K (Grade 9) からの声:

“海堀あゆみさんの訪問はとても貴重な経験で、大変楽しむことができました。彼女は元プロサッカー選手であり、自分が将来成し遂げたいことをすでに達成している方から学べたことはとても刺激的でした。また、ワールドカップの金メダルやオリンピックの銀メダルに触れたり、実際に身につけたりすることができ、本当に特別な体験となりました。”

My dream is to become a professional soccer player and play overseas!

私の夢はプロのサッカー選手になり、海外でプレーすることです。

“海堀あゆみさんからいただいたアドバイスは、決してあきらめず、目標に向かって努力し続けることでした。また、自分を信じ、挑戦し続けることの大切さも教えていただきました。”



STUDENT COUNCIL

なぜ生徒会の会長・副会長に立候補しようと思ったのですか？

M: 私が生徒会長に立候補した理由は、学校は単に毎日通う場所ではなく、生徒が誇りを持って所属できるコミュニティであるべきだと考えているからです。これまでのリーダーシップや学校行事での経験を通して、小さなアイデアであっても、人々が行動しようとするれば大きな変化を生み出せることを実感しました。生徒のアイデアを形にし、学校生活をより充実した、楽しく、そしてつながりのあるものにするために、この役割に挑戦したいと思いました。

S: 私は学校生活に関わり、さまざまな人と協力することがとても好きなので、副会長に立候補しました。より多くの生徒が安心して自分の考えを共有できる学校にしたいと思っています。また、この役割は自分自身に挑戦し、リーダーとして成長できる素晴らしい機会だと考えています。そして、その過程も楽しみたいと思いました。

あなたはこの役割に自分が持っている強味をどのように活かせると思いますか？

M: 私は、エネルギー、粘り強さ、そして他者への真摯な思いを持っています。プレッシャーの中でも前向きでいられること、見えないところでも努力を続けること、そして困難に直面しても簡単に諦めないことが自分の強みだと思います。また、私は「聞くこと」と「伝えること」を大切にしています。優れたリーダーとは、多くを語る人ではなく、人を理解し、目的をもって人々をつなげることができる人だと考えています。

S: 私は、誰にでも話しかけやすい存在であることを心がけています。そうすることで、人が安心して自分の考えを共有できるようになると思うからです。また、新しいアイデアを考えることや、それを実現するためのシンプルな方法を見つけることが好きです。今年が「自分たちの一年だった」と感じられるような学校生活をつくる手助けができればと思っています。

今年の生徒会で、何を達成したいと考えていますか？

M: 今年は、より一体感があり、活発で、可能性にあふれた学校環境をつくりたいと考えています。生徒・教師・生徒会間のコミュニケーションを強化しながら、学校生活をより楽しく思い出に残るものにするイベントや取り組みを実現したいです。何よりも、生徒一人ひとりが自分の声に価値があると感じ、自分たちのコミュニティを形づくる力を持っていると実感できるようにしたいです。また、今年をすべての生徒にとって「最高の中の最高の一年」にすることを目指していますので、これからのイベントや活動、アイデアをぜひ楽しみにしててください！

S: 今年は、すべての人にとってよりつながりがあり、参加しやすい学校にしたいと考えています。リラックスした雰囲気の中で、生徒が自分の意見を共有できる機会を増やしたいです。また、楽しいだけでなく意味のあるイベントを企画し、生徒がより学校生活に関わっていると感じられるようにしたいと思っています。これからの活動をぜひ楽しみにしててください！

なぜ生徒の声を聞くことが重要だと思いますか？

M: 生徒の声は非常に重要だと考えています。なぜなら、生徒は日々の学校生活を実際に経験しており、他の誰にも完全には再現できない視点から物事を見ているからです。生徒のアイデアや懸念、創造性は、より良い学校環境を築くために欠かせません。自分たちの声がきちんと聞かれていると感じることで、生徒は大切にされていると実感し、意欲が高まり、より積極的に貢献しようとするようになります。強い学校コミュニティは、生徒のためにだけでなく、生徒とともに築かれるものです。

S: 生徒の声は最も重要なものの一つだと思います。学校はただ通う場所ではなく、自分たちが所属するコミュニティだからです。生徒が自分の意見を共有できることで、より支え合い、包容力のある環境が生まれます。また、自分の意見が大切にされていると感じることで、自信や意欲の向上にもつながると思います。

Learner Profile

AWARD WINNERS



A.Y. (Grade 7) - Communicator. Aは数学の授業で、積極的に質問に答え、自信を持って自分の考えを共有する姿勢を継続して示しています。

S.I. (Grade 7) - Thinker. Sは常に準備を整えて英語の授業に臨み、積極的に参加し、クラスメートとの会話においても英語でコミュニケーションを取ろうと努力しています。その姿勢からは、深い関わりと、さまざまな場面で学びを活かそうとする意欲が感じられます。

Y.M. (Grade 8) - Caring. Yは毎朝のホームルームで校歌を歌う際、自ら進んでピアノ伴奏を引き受けています。その演奏は非常に素晴らしいものです。

A.I. (Grade 8) - Principled. Aは改善すべき点を認識し、より公平で思いやりのあるホームルーム環境を築くために責任を持って取り組むことで、強い信念を示しました。

K.V. (Grade 8) - Caring. Kは、教室のドアを開けて泣きながら助けを求めてきた迷子のGrade 6の生徒を、親切にも教室まで案内することを自ら申し出ました。

J.K. (Grade 9) - Caring/Thinking. Jはクラスバナーやうちわなど、Harunaクラスの装飾作りを主体的に進めています。全体として、教室を明るく楽しい雰囲気になりたいという思いが感じられます。

Y.K. (Grade 11) - Caring. Yは経済の授業において、常に主体的に教師やクラスメートをサポートしています。

Y.H. (Grade 11) - Caring. 日々、責任感と優しさ、そして素晴らしい態度を示しています。

Y.K. (Grade 12) - Communicator. Yは英語のフォーマティブのスピーキングアセスメントにおいて、相手の話を関心を持ってよく聞き、自然に応答することで、優れた対話力を発揮しました。また、必要などときには自信を持って質問し、助けを求めることができ、主体的に学びに取り組む姿勢を示しています。

PURPLE COMET

Math Competition

パープル・コメット数学チャレンジ

数学科では、Grade 10から12の生徒をパープル・コメット数学チャレンジに参加させました。ここでは、このチャレンジの内容と生徒にとっての意義について説明しています。

パープル・コメット数学チャレンジとは何ですか？また、生徒にとってどのような価値がありますか？

無料で参加できる国際的なチーム対抗の数学コンテストで、30問の問題の中から、90分間でできるだけ多くの問題を解く大会です。この大会は、競争的な環境の中で、生徒が数学的スキルを創造的に活用する機会となり、また、異なる学年の生徒と協力して取り組む良い機会でもあります。

大会中、生徒たちはどのように協力して取り組みましたか？

チームはそれぞれの得意分野に応じて問題を分担しました。一部の問題では、生徒同士で考えを共有し、解き方を確認しました。

互いに解答を発表し合い、結果の正しさを確認しました。



成果を上げたチームはどのような戦略を使っていましたか？

まだ結果は出ていませんが、繰り返し計算を効率化したり解答を検証したりするために、さまざまなデジタルツールを活用している様子が見られました。それらのツールには、グラフ電卓からExcelのようなスプレッドシートまで含まれていました。また、生徒が個別に問題に取り組む時間と、複雑な問題について一緒に話し合う時間のバランスを取りながら、良好なコミュニケーションを行っていました。

大会中、どのように生徒をサポート・指導しましたか？

大会中、教師は介入しませんでした。大会前には、過去問題の探し方など、準備の方法を教師が生徒に示しました。

教師として、この経験の中で最もやりがいを感じたことは何ですか？

生徒たちが数学を楽しみながら協力して取り組み、これまでに培ってきたさまざまなスキルを活用している姿を見ることでした。

生徒たちはどのような課題に直面し、それをどのように乗り越えましたか？

高いプレッシャーの中で90分間集中し続けることは、生徒にとって大きな課題でした。一分一分が貴重であったため、休憩を取るべきかどうかを自分たちで判断する必要がありました。



WORLD BOOK DAY



4月23日（木）、IB Division全体で生徒と教員が集まり、活気にあふれた魅力的な形でワールド・ブック・デーを祝いました。

創造性と熱意、そして読書への共通の愛に満ちた一日となりました。



生徒たちと教員たちはそれぞれお気に入りの本の登場人物に扮し、学校中でよく知られた物語を生き生きと再現しました。授業中には、生徒と教員の双方が自分の好きな本を声に出して読む機会を持ちました。

昼休みには、Grade 11および12のリーダーが中心となり、Grades 6～10の生徒向けにさまざまなコンテストを企画・運営しました。「どの先生がハリー・ポッターを読んでいるでしょう？」や「あなたの先生の好きな本は何でしょう？」といった活動が行われ、生徒たちに楽しまれました。

さらに、生徒たちは以下のような多様で創造的な文学コンテストにも参加しました。

- 6語で本の内容をまとめる
- 小説の表紙をデザインし直す
- 物語の登場人物にアドバイスを書く
- 文学に関する考えさせられる問いに答える



Grumpy Scrooge (Mr. Furnival), Something (Mr. Siose), Superman (Mr. Serpico)

一日を通して、多くの生徒が積極的に参加していたことがとても印象的でした。提出された作品の水準も非常に高く、コンテストの結果発表を今から楽しみにしています！





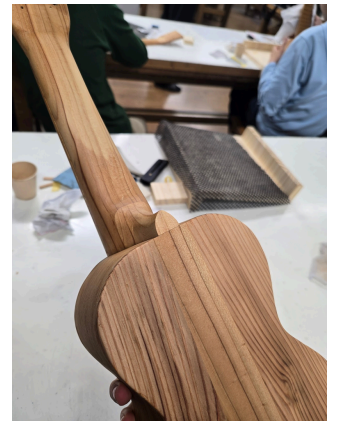
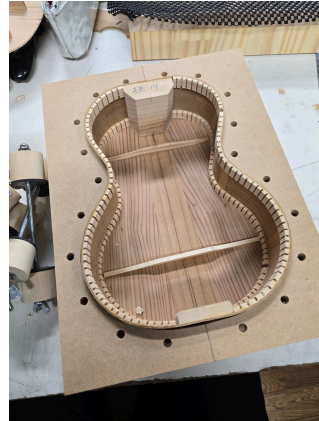
MY EXPERIENCE IN “HOU KU’I PROJECT”

HOU KU’I プロジェクトでの私の経験

S.S.

Tamagawa Academy の延長教育（Extended School）の通年プログラムである「Hou Ku ‘iプロジェクト」の一環として、私は音楽とパフォーマンスを通じてハワイと日本の文化を深掘りする機会を得ました。

このプログラムの中で、私は学園の森で守られてきた木々を使ってオリジナルのウクレレを自作しました。ものづくりを通して自然を大切にすることを学び、また、毎週のウクレレの練習を通じて演奏スキルを磨きました。



↑私たちは、学園の森を守るために伐採されたTamagawa Academyの木材を使って、自分たちだけのウクレレを製作しました。それぞれのウクレレは、パーツごとに異なる種類の木材が使われているため、一つひとつに独自の香りや個性があります。まさに、世界に一つだけのウクレレです！



14年の経験を持つフラダンサーとして、私はこのプログラムの中でフラも披露し、音楽だけでなくダンスを通じてハワイの文化を共有しました。ハワイでは、現地の先生方が私のパフォーマンスに深く感動してくださり、その表現力や背後にある精神を称賛してくださいました。また、世界的に有名なウクレレアーティストであるジェイク・シマブクロ氏のコンサートで演奏する機会にも恵まれました。

音楽、フラ、そして文化交流を通じて、このプロジェクトは、文化がいかにかに言語や背景を超えて人々を繋ぐことができるかを教えてくれた、意義深い経験となりました。



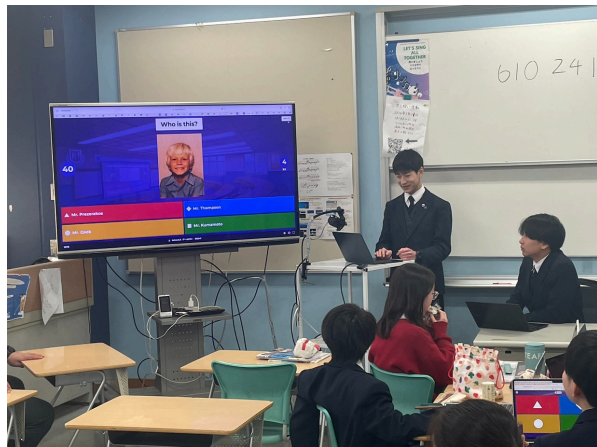
YOUTH FOR CEBU:

TAMAGAWA IB JOINS MULTI-SCHOOL EFFORT TO SUPPORT DISASTER RECOVERY

被災地復興支援に向けた、TAMAGAWA IBと複数校による共同の取り組み
R.K.

こんにちは、12年生のRです。今回は、春休み中にフィリピンのセブ島で行った奉仕活動について紹介します。私がセブを訪れるのは今回が2回目でした。昨年発生した地震や台風の影響で、困難な状況にある被災地の方々がどのような生活を送っているのかを自分の目で確かめるためです。

実際にセブへ行く前に、津田学園（三重）、法政第二（川崎）、南（横浜）の各高校、そして私たちのTamagawa IBクラスを含む、日本国内の4つの異なる学校からこのイベントに参加する高校生たちが、それぞれの学校でチャリティ活動を企画しました。合計で66,045円（24,800フィリピン・ペソ）が集まり、600人以上の生徒が協力してくれたと推定されます。フィリピンの一般的な家庭であれば、この金額で2ヶ月間生活することができます。Tamagawa IBクラスとしては、12年生のY、R、L、そして私の4人で1月にチャリティ・ウィークを企画し、11,605円（4,500フィリピン・ペソ）を集めました。



集まった寄付金を使って、現地のスーパーマーケットで袋麺64個、缶詰48個、そして100kgの米を購入しました。私たちはこれらの品物を、異なる地域の100世帯近くの家族に配布しました。受け取った皆さんはとても嬉しそうで、感謝の気持ちを伝えてくれました。

私たちの支援は有意義なものであり、私たちと現地の方々が互いに理解し合うきっかけになったと感じています。実際に顔を合わせることで、私たちだけでなく、現地の方々にとっても寄付を直接受け取るというポジティブな感情が生まれたはずです。私は、まず相手が何を必要としているかを理解し、対等な立場で考えることの重要性を学びました。活動を始めるにあたって、まずは現地の大学生にインタビューを行い、被災地の人々が本当に必要としているものを調査しました。彼女から「食料品が切実に必要だ」と聞いたため、私たちはそれらを購入し、配布したのです。



この写真は、被災地の民家の様子を写したものです。いくつかの家はひどく壊れており、骨組みだけが残っているのがわかります。私は、人生で初めてこのような状況を目の当たりにし、大きなショックを受けました。

結論として、当初の予想を上回る100世帯近い家族に寄付を届けることができ、私たちの支援は非常に意義のあるものとなりました。そして、多くの現地の方々が私たちに「ありがとう」と言ってくれました。協力してくださったTamagawa IBのすべての生徒と先生方に、心から感謝の意を表したいと思います。



集まった寄付金を使って、現地のスーパーマーケットで袋麺64袋、缶詰48個、そしてお米100kgを購入しました。私たちはこれらの品物を、さまざまな地域の100世帯近い家族に配布しました。受け取った皆さんはとても嬉しそうで、感謝の気持ちを伝えてくれました。

最後まで読んでいただきありがとうございました。次回のニュースレターも楽しみにしててください！

[Back](#)

THE 2026 TAMAGAWA - GOETHE EXCHANGE PROGRAM

玉川学園ードイツ・ゲーテ校研修

1989年以来、玉川学園とドイツ・ゲーテ校は、共同交換留学プログラムを通じて深い国際的な絆を育んできました。ラウンドスクエアの理念に基づいて構築されたこのパートナーシップは、文化への没入とグローバル教育という変革的な体験を生徒たちに提供し続けています。

K Kさんによって報告された2026年のプログラムは、主に2つの期間にわたって活動が行われました。第一段階は9月29日から10月13日まで実施され、ドイツからの生徒たちが来日し、スポーツと科学の取り組みを共有しました。生徒たちはスーパーサイエンスハイスクールの活動や体育祭に参加したほか、合気道を通じて日本の伝統文化を体験しました。3月18日から3月28日に予定されている第二段階では、Tamagawaの参加者がドイツ各地を巡り、デュッセルドルフ、フランクフルト、ミュンヘンの歴史的および現代的な街並みを探索しました。



玉川の生徒たちは、正式な式典以外にも、このプログラムは異文化における日常生活を真に垣間見る機会を提供しました。生徒たちは、通常9:30から10:35、あるいはそれ以降まで続く厳しい授業スケジュールをこなし、学食で食事を共にし、科学ラボやコンピュータールームで協力して作業に当たりました。



また、この交換留学は教室の外で個人的なつながりを築く場でもありました。参加者たちは地元のランドマークを探索したり、REWEのようなドイツのスーパーマーケットを訪れたり、市街地で地元の料理を味わったりして楽しみました。

団体スポーツであれ、静かな友情のひとつきであれ、2026年の交換留学は、30年以上にわたってこのパートナーシップを象徴してきた「相互尊重と学び」の伝統を無事に守り抜きました。これらの国際的な友情が今後どのように成長し続けるのか、非常に楽しみです！





SOCCKER REPORT

サッカー部活動報告



Date: 4月26日 (日)

Competition/大会名: 2026 High School Comprehensive Sports Tournament
Tokyo Prefectural Qualifiers.
令和8年度 高等学校総合体育大会 東京都予選

South Branch Qualifiers.南支部予選
First Round. 1回戦

Location: Tokyo Metropolitan Oizumi High School
会場: 東京都立大泉高等学校

**TOKYO
METROPOLITAN
OIZUMI HIGH
SCHOOL**

VS

**TAMAGAWA
GAKUEN**



[Back](#)

Get to know YOUR teacher!

先生のことを知ろう!



"IMMERSE YOURSELF IN EVERYTHING ENGLISH!"

「英語」のすべてに
どっぷりと浸かりましょう!

Mrs. LIWAG

Q.どこで育ちましたか?

A. マニラのカローカン市で育ちました。

Q.教師になろうと思ったきっかけは何ですか?

A. 私は教師の家庭で育ち、その影響を受けて自分も教師になろうと思いました。

Q.どの教科を教えていますか?また、その教科のどんなところが好きですか?

A. MYPでは言語習得、DPではEnglish Bを教えています。学際的な教科であり、文学の単元を教えるのがとても楽しいです!

Q.先生の教科で成果を出すために、生徒にどのようなアドバイスがありますか?

A. 英語にどっぷり浸かりましょう!できるだけ多く英語を読み、聞き、書き、話してください!

Q.玉川学園で働く一番の魅力は何ですか?

A. 玉川学園で働く一番の魅力は、常に自然に囲まれていることです。周囲の景色に四季の変化が表れるのを見るのが好きです。

Q.玉川学園の生徒のどんなところが一番好きですか?

A. 一番好きなのは、フレンドリーなところです。廊下ですれ違うと挨拶をしてくれたり、プリントを渡すと「ありがとう」と言ってくれたりします。一見小さなことのように思えますが、とても大切なことです。

Q.好きな学校の行事は何ですか?

A. 私の好きな学校行事はペガサス祭です。生徒たちが楽しんでいる様子を見るのがとても嬉しいです、生徒たちのさまざまな才能を見ることができ素晴らしい機会でもあります。

Q.日本で教えたいと思った理由は何ですか?

A. 日本は昔から私の憧れの国でした。成長する中で、さまざまなメディアを通して日本の文化や伝統に触れてきました。日本のおもてなしや礼儀正しさは世界的に知られており、それを実際に体験してみたいと思いました。また、日本の教育制度にもとても興味があり、自分がどのように貢献できるか考えていました。

Q.日本のどんなところが一番好きですか？

A.日本で一番好きなのは、特に電車などの交通機関の効率性と信頼性です。たとえ遅延しても、学校や職場に提出できる遅延証明書を発行してくれるのでとても助かります。

Q.日本と母国の最も大きな違いは何だと思いますか？

A.日本とフィリピンの最も大きな違いは、日本には四季があるのに対し、フィリピンには降水量に基づく雨季と乾季の2つの季節しかないことです。服装については、フィリピンでは一年中ほぼ同じものを着られるので、考えるのが少し楽です。

Q. IB学習者像の中で最も大切だと思う資質はどれですか？また、その理由は何ですか？

A.私が最も大切にしているのは「探究する人 (Inquirer)」です。私たちの周りには魅力的なことがたくさんあります。知識への探究心を持ち、常に好奇心を忘れず成長し続けることが大切だと思います！

Q.授業の中でどのようにグローバルな視点を育てていますか？

A.授業で扱うトピックや、世界中のさまざまな声や視点に触れさせることで、生徒がグローバルな視点を持てるようにしています。

Q.ご自身についての意外な一面を教えてください。

A. 去年の夏、初めてクリフダイビングに挑戦しました！

Q.あなたのお気に入りデザートは何ですか？

A.ハロハロ

Q.あなたのお気に入りのおやつは何ですか？

A.ピニピッグ・ポルポロン

Q.あなたの好きな飲み物は何ですか？

A. 柚子茶とマサラチャイ

Q.あなたのお気に入りの音楽アーティストやバンドは誰ですか？

A. Sara Bareilles (サラ・バレリス)

Q.あなたの趣味は何ですか？

A. 絵を描くこと

Q.好きなスポーツ(する・観る)は何ですか？

A.テニスの試合を観ることと、バドミントンをするのが好きです。

Q.あなたの好きな季節は何ですか？

a. 春

Q.あなたの好きな時間帯はいつですか？

A. 夜の時間

Q.あなたの好きな祝日は何ですか？

A. クリスマス

Q.あなたの好きな名言は何ですか？

A.「誰かに与えられる最大の贈り物は“時間”である。なぜなら、時間を与えるということは、二度と取り戻せない自分の人生の一部を与えていることだからだ。」— ミッチ・アルボム著『モリー先生との火曜日』より



MODEL UNITED NATIONS CLUB

Tamagawa IB模擬国連（MUN）部は、近年成長を続けています。2020年にはわずか4名だったメンバーも、現在は8年生から12年生まで25名が所属しています。

MUNは、国際的な視野を広め、地球規模の課題への意識を高め、若者がこれらの課題に取り組み、創造的な解決策を開発するための情熱と野心を育むために、国際連合によって後援されています。MUN会議の参加者は、代表する国と、国連委員会の範囲内で取り組むべき課題を与えられます。

今年1月24日、私たちは第3回目となった年次のTamagawa Junior MUN会議を開催しました。MUNは、国際的な視野を広め、地球規模の課題への意識を高め、若者がこれらの課題に取り組み、創造的な解決策を開発するための情熱と野心を育むために、国際連合によって後援されています。MUN会議の参加者は、代表する国と、国連委員会の範囲内で取り組むべき課題を与えられます。毎年Tamagawaでは、東京近郊のインターナショナルスクールの中学生や、英語プログラムを持つ他の日本の学校の生徒を招待しています。

今年は7つの異なる学校から100名以上の生徒が参加しました。私たちの高校生がカンファレンスを運営し、3つの委員会の議長を務めました。生徒たちは、紛争地域における子どもの保護、紛争地域における水不足、そして先住民の権利保護の課題に取り組みました。MUNは、生徒たちがIBの価値観である国際的な視野を体現する素晴らしい機会であり、またリサーチ能力やパブリックスピーキング能力などの個人的なスキルを向上させる機会でもあります。最も重要なことは、世界をより良い場所にするという目標のために、異なる学校の仲間と交流し、学び、協力し合う機会であるということです。



[Back](#)

KOINOBORI CUP '26



4月30日（木）、玉川学園IBDivisionではSecondaryの生徒と一緒にこいのぼりカップへ参加しました。この行事は生徒間およびクラス間の親睦を図る目的として、毎年、IBとSecondaryの生徒会の合同主催で実施されるスポーツイベントです。

HR単位を原則としながらも、クラブ対応リレーがあったりと全部で6種目に取り組みました。おそろいのクラスTシャツを作成し、親睦を深めた1日、曇り空を引き飛ばすような黄色い歓声に包まれた1日となりました。



「こいのぼりカップ」は、スポーツ競技と文化的な祝祭を通じて、本校の「全人教育」の理念を完璧に体现した活気ある恒例行事です。こどもの日に合わせて4月下旬に開催されるこのイベントでは、強さと忍耐の象徴である色鮮やかな鯉のぼりが風に舞い、キャンパスの景色を一変させます。

様々な学年の生徒たちが、エネルギッシュなスポーツやチーム対抗のチャレンジに加わり、仲間意識と「玉川スピリット」を深く育みます。

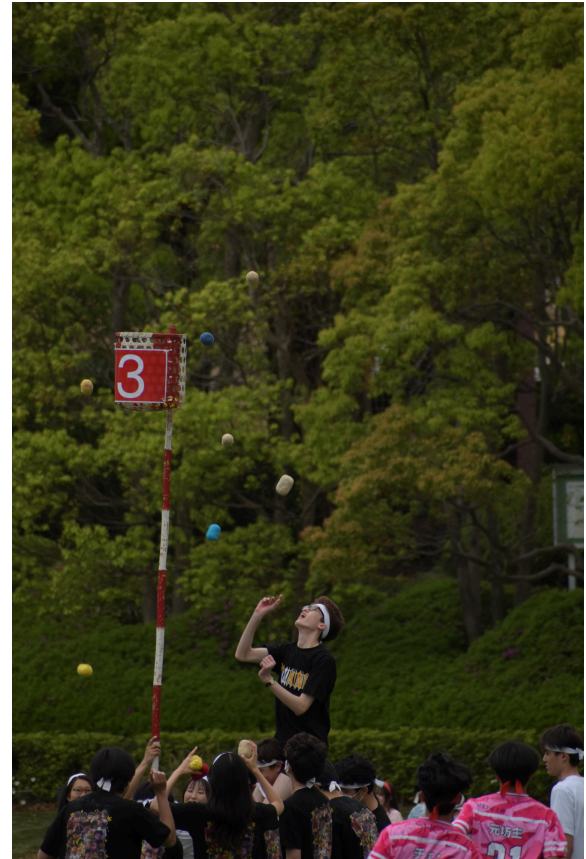
これは単なるトーナメントではありません。スポーツマンシップと集団の努力に焦点を当てることで、しなやかに調和の取れた人間形成を目指す本校のコミットメントを反映した、生徒たちの成長を視覚的・身体的に表現する場なのです。



KOINOBORI CUP '26

一日は早朝7時45分の実行委員会招集から始まり、続いて8時50分には士気を高める開会式が行われました。午前のセッションでは、玉入れ（Ball Scramble）や台風の目（Eye of the Typhoon）、そして激しい竹引き（Rope Scramble）といった、熱気あふれる伝統種目が繰り広げられました。これらの競技で生まれた素晴らしい勢いのまま昼食休憩に入り、生徒たちはグラウンドやホームルームで共に食事を楽しみました。

午後の興奮は、12時35分の待ちに待った部活動対抗リレーで再開しました。その後、生徒たちは大縄跳び（Long Rope Jump）で見事な連携とスタミナを披露し、一日の盛り上がりは選抜リレーで最高潮に達しました。午後2時25分からの厳かな閉会式をもって全プログラムが終了し、仲間との絆とスポーツの成果を刻んだ思い出深い一日は幕を閉じました。午後3時の下校時には、このイベントがTamagawaコミュニティの活気に満ちた精神を改めて強化したことが、誰の目にも明らかでした！



今年のこいのぼりカップは、まさにここまでのハイライトと呼ぶにふさわしいもので、こいのぼりが象徴する「強さ」と「忍耐」を完璧に体現していました。大会では非常に高いレベルのスキルとフェアプレーが披露され、選手も観客も同様に、校訓に対する深い誇りを感じることでなりました。

澄み渡る空の下でトロフィーが掲げられ、このイベントは単なる競技会としてではなく、私たちのコミュニティを象徴する友情とスポーツマンシップを末永く称える祝祭として幕を閉じました。

FIELD TRIP

TSUKUSHINO FIELD ATHLETICS



6年生から8年生の総勢175名と引率教員でつくし野フィールドアスレチックに遠足に行きました。今年で50周年を迎えるつくし野フィールドアスレチックは自然体感型運動施設で50種類の木造遊具があり、幅広い年齢で楽しめる施設となっています。

当日は天気が心配でしたが、子どもたちは泥だらけになりながら、仲間と共にアスレチックに挑戦していました。

午前中は6・7・8年生の縦割り班で活動し、遊具を体験しながら引率の先生を探し、それぞれが出したクイズやパズルに挑戦しました。

縄跳びを飛ばないといけないチャレンジから「私の今読んでいる本は？」とヒントをもらいながら答えたり、「人は嘘をついていいの？」と言った正解のない質問に対して自分なりの説明をつけて



答えるなど、多岐に渡った難題に挑戦し、先生たちに多くのサインをもらうべく頑張りました。お昼を食べて午後は各クラスで活動しました。

一日を通して、けがをした後輩を養護の先生のところに送り届けたり、きちんとみんなついてきているか常に確認する8年生のリーダーらしい行動が出始め、頼もしい限りでした。

IBに入ったばかりの6年生や、新入生も含め、大いに楽しめた一日でした。

